

冷たい風がやわらぎ、春を待ち望む自然界の鼓動を確かに感じる今日、ここに、聖霊学園高等学校の卒業式を挙行できますことを心より喜び、感謝申し上げます。

カトリック新潟教区成井大介司教様はじめ、ご臨席いただきましたご来賓の皆様、教職員一同、卒業生と共に、心より御礼申し上げます。

保護者の皆様におかれましては、お嬢様の成長された姿に深い感慨を抱いておられることでしょう。ご卒業、誠におめでとうございませう。かけがえのないお嬢様の青春時代を、本校の教育に託して下さったこと、心より感謝申し上げます。3年間、本当にありがとうございました。

ただいま卒業証書を授与した卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございませう。聖霊学園高校の教職員を代表し、心からお祝い申し上げます。今日という日を迎え、皆さんの心には3年間の思い出が鮮やかによみがえっていることでしょう。嬉しかったこと、悔しかったこと、仲間と笑い合ったこと、困難を乗り越えたこと——その一つひとつが、皆さんにとってかけがえのない「財産」です。

皆さんが入学した2022年の春、それは私が校長として本校に着任した年でもありました。入学式で初めて皆さんと対面し、新たな出会いに胸を躍らせたことを思い出します。あの時の緊張した面持ちから、今日の皆さんは大きく成長し、希望に満ちたまなざしを輝かせています。

3年前、世界は大きな変化の中にありました。新型コロナウイルスの影響で、学校生活の形が問われる時期でしたが、皆さんは、オンラインでの集会や新しい方法での行事の運営などを通して、学校生活の価値を模索する先生方を助け、前例のない道を切り拓いてくれました。

2023年の夏、秋田県内を襲った大豪雨による浸水被害を受け、日常が一変しました。夏休み明け、授業は再開できましたが、予定していた活動の変更を余儀なくされ、残念に思うこともありました。しかし、皆さんは柔軟に適応し、前向きに学校生活を送る姿を見せてくれました。その姿は私たち教職員にとって大きな励ましでした。その後も、能登半島地震をはじめ、頻発する自然災害、国際社会における緊張の高まりなど、私たちの価値観を揺るがす出来事が次々と起こりました。

また、日本の教育界も転換期を迎え、生成AIの急速な進化と普及、探究学習の深化、多様な学びの形が広がっています。「答えのない時代」において、自ら考え、選択し、行動する力がこれまで以上に重要になっています。皆さんが聖霊学園で培った「柔軟性」「創造性」「協働性」「主体性」は、これからの時代を力強く生き抜くための礎となることでしょう。

今日こうして、私が皆さんの前で、お話しする最後の時にあたって、伝えておきたいことは一つです。自分自身の心の中に灯っている光を信じることについてです。

聖書には、こうあります。何度も耳にしてきた聖書の言葉です。

**「光の子として歩みなさい。光から、あらゆる善意と正義と真実とが生じるのです。」**

皆さんの心に灯っている「光」は、未来を照らす羅針盤です。この3年間、皆さんを導いてくれたその光を頼りに、真実を求め、善を行い、美しいものを大切にしながら、人生の道を歩み続けてください。いつ、どのような状況の中にあっても、自分自身と、かかわる人々の幸せのための最善を選び取り、行動していきましょう！何をどのように選ぶ取るのは、心の中の「光」、聖霊という名の「光」が、教えてくれます。社会は皆さんの「光」を必要としています。

2024年春、聖霊学園高校は、新たな校名のもと、新しい時代の第一歩を踏み出しました。皆さんはその歴史の第一歩を刻む卒業生です。聖霊の卒業生であること、「光の子」であること、そして、仲間と共にこの学び舎で得たものすべてを誇りに、明日からの新しい一歩を踏み出しましょう！

すべての“いのち”の幸せのために、人々と共に輝く光の子として歩む皆さんの未来が、希望と光に満ちたものであることを心から願い、私の式辞といたします。